

地域子ども・子育て活動支援助成事業 実施報告書（別紙2）

団体名	中野島学童ホール
取組の名称	放課後児童健全育成事業を基盤とした地域との連携事業
実施場所	中野島学童ホール
対象地域	川崎市多摩区中野島周辺
対象地域の特色・課題	<p>◆梨畑が点在し、多摩川も流れるなど比較的自然が多い地区である。一方、多摩区のこどもがいる世帯に向けたアンケートによると、小学校入学に向けて不安なこととして、「通学路の安全対策」や「子どもの放課後の居場所」、を挙げる人が全体の約半数に上っている。</p> <p>◆さらに、地域活動などに参加したことがない、という人が約4割にのぼる。特に中野島地区では全世帯の9割以上が核家族世帯であるため、地域や近所とのつながりが希薄な傾向にある。昨今のコロナ禍による地域イベントの制限や中止が、つながりの希薄さに拍車をかけている。</p> <p>参考) 多摩区中野島カルテより</p>
取組の趣旨・目的	<p>事業1: 学童保育（中野島学童ホール） 小学生、およびその親に対し、放課後や長期休暇時の安全・安心な居場所を確保すること。</p> <p>事業2: 地域連携 子ども食堂および工作教室、こども祭りといったイベント開催による地域との交流、および子どもと大人・異世代との交流による地域のネットワークづくり。</p>

<p>実施内容・実施スケジュール</p>	<p>事業 1: 学童保育 小学 1~6 年生（特別な配慮を要する児童を含む）を対象に、放課後や学校休業日の安心・安全な居場所を提供した。また、学習（学校の宿題、自主学習など）や遊び（外遊び、室内遊び）、おやつ作りなどを通して集団生活から人間関係の構築力や自主性、社会性を養う支援をおこなった。 更に、学校の長期休業日には、地域の児童を一時的に受け入れ、保育サービスの拡充を図った。</p> <p>事業 2: 地域連携</p> <p>① 子ども食堂 昼食を提供することにより、子どもとその保護者、若者、地域の方々が、気軽に立ち寄れる場所、仕組みをつくった。概ね 2 ヶ月に 1 回の割合で年間 6 回開催した。</p> <p>② 工作教室等 2024 年 5 月 12 日に「シャカシャカキーホルダー」作成の工作教室を開催し 82 名の参加があり 184 個の作成があった。8 月 3 日には夏休みの自由課題にもなる工作として「葉刷り染め」の作成を開催し、3 組 4 名の子どもとその保護者の参加があった。 また、実験教室を学童保育の利用者を対象に開催した。</p> <p>③ こどもまつり 2024 年 10 月 6 日に、下布田小学校で「かわさきこどもまつり」の開催を企画、準備を進めた。天候不良のため体育館での開催となったが、533 名の来場があり盛況だった。</p>		
<p>参加者の年代</p>	<p>事業 1: 小学生 事業 2: 幼児~大人</p>	<p>定員 （1 回あたり）</p>	<p>事業 1: 約 39 人 事業 2: ① 約 25 人、② 約 30~80 人、③ なし</p>
<p>実施頻度</p>	<p>事業 1: 週 5 日以上 事業 2: ① 年 6 回 ② 年 3 回、③ 年 1 回</p>	<p>活動日数 （年間）</p>	<p>事業 1: 269 日 事業 2: ① 6 日、 ② 3 日、③ 1 日</p>

<p>スタッフ体制</p>	<p>事業1: 常勤支援員1名/日、及び非常勤支援員、有償ボランティア1~2名/日(学校休業日は増員対応)</p> <p>事業2: ①② 学童保育を利用中の保護者、及びOB合わせて5~6名、③ 常勤、非常勤支援員、学童保育を利用中の保護者20人、ほか地域団体のスタッフ・利用者など</p>
<p>連携する団体・ 連携の手法</p>	<p>事業1: 他の学童保育実施団体と定期的に会合を持ち、継続すべき点、改善すべき点などの情報交換をおこなった。また、子ども同士の交流もおこなった。</p> <p>事業2: ① かわさき子ども食堂ネットワークと連携し、情報交換をおこなった。また、町会に協力いただき、掲示板や回覧板で告知いただいた。さらに、小学校にも協力いただき、チラシの配布をおこなった。他に、学童のOB会である「おいでよ会」にはスタッフとして協力いただいた。</p> <p>② 町会に協力いただき、掲示板や回覧板で告知いただいた。さらに、小学校にも協力いただき、チラシの配布をおこなった。また、実験教室、ロボットプログラミング体験に関しては、かわさき宙と緑の科学館などで活動されている科学実験ボランティア団体に、企画・運営へのアドバイスや機材の貸し出しなどで協力いただいた。</p> <p>③ 地域の障害者団体、音楽団体、ボランティア団体などと連携し、イベント開催に向けた連絡調整をおこなった。また、町会に協力いただき、掲示板や回覧板でフリーマーケットや遊びコーナーの出店を呼びかけた。</p>
<p>取組実施により 見込まれた効果</p>	<p>事業1: 保護者の就労支援、及び児童(特別な支援を必要とする児童も含む)と保護者への安心・安全な居場所を提供することができた。6年間の集団生活を通して、年齢の異なる児童、大人(親、支援員、地域の方々)との適切な人間関係の構築、集団生活の送り方、地域との関わりにより、現代を生きる術を身につけることに寄与できた。</p> <p>事業2: 子どもや若者が、世代を超えた地域の方々とふれあい、顔見知りになることで、地域ぐるみで子どもとその親を支え合う基盤の構築をおこなうことができた。また、異なる団体の方と連携することにより、立場の異なる様々な方々の助言を得られ、子どもも多様な価値観を得、経験することができた。</p>